

# 長期戦略:テーマ 「Evidence-based Management の推進」

提出日 2022年 8月 24日

担当部署

## II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	小野総合企画部長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	総合企画部
-----------------------	---------------------	---------------	-------

### 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
8-(2)-① KGI・KPI の設定・活用	2019 年度	2024 年度	必要⇒【必須型】(全 学部または全研究科 での取組みが必須)	不要
<p>内容</p> <p>非営利組織である学校のマネジメントにおける最大の課題の一つは、最上位のアウトカム(成果)を定め、その達成度を測る KGI や KPI を設定することにある。学院では KPI ダッシュボード等のツールを活用して「Kwansei Grand Challenge 2039」(超長期ビジョン・長期戦略)および中期総合経営計画(実施計画・基盤計画)の進捗や達成度を含めた成果を検証する仕組みを構築する。そのために、教学・経営両面のデータ活用を司るのに最適な組織体制を確立する。また、各学校および大学の各学部も、全学の KPI と連動しながら個別の状況に合わせて独自に KPI を設定し、毎年その数値や取組状況を評価し、改善・促進の取り組みに活用する。</p>				
進捗状況を測る指 標	指標名	定義・算式		
指標1	学部・研究科独自 KPI を設定・ 活用する学部・研究科の数	学部・研究科独自 KPI を設定・活用する学部・研究科の数		
指標2	KGI・KPI を評価・活用する会 議体の数	KGI・KPI を評価・活用する会議体の数		
指標3				

## 目標1&lt;指標1&gt; 学部・研究科独自 KPI を設定・活用する学部・研究科の数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	11学部・14研究科	11学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科
実績	11学部・8研究科	11学部・13研究科	12学部・14研究科 (理工学部含む)			

## 目標2&lt;指標2&gt; KGI・KPI を評価・活用する会議体の数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会
実績	上記3つの会議で実施	上記3つの会議で実施	上記3つの会議で実施			

## 目標3&lt;指標3&gt;

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

## 2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
KGI・KPI の設定・活用	策定段階	KPI 設定・評価 総合的な IR 組織体制 の検討	評価・改善	評価・改善 総合的な IR 組織体制 の検討	評価・改善	評価・改善	
	2023 年 3 月末段階	内部質保証部会を中心 に検討	同左	同左	同左	同左	
			2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	評価・改善	評価・改善	評価・改善	評価・改善		
	2023 年 3 月末段階	同左					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
	策定段階						
	2023 年 3 月末段階						
			2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階						
	2023 年 3 月末段階						

## 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							

## 4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	2019 年度から学部・研究科において、全学の KPI を見据えた独自 KPI を設定し、それを活用した PDCA サイクルを進めるツールとしての「中期計画総括シート」を作成した。
2020 年度	「中期計画総括シート」を活用して、中期総合経営計画と連動しながら、学部・研究科の自己点検・評価を進めた。独自 KPI が未設定であった研究科への支援も行い、独自 KPI を設定する研究科は 13 研究科まで増加した。また、全学での KGI・KPI の数値や取組状況を共有・評価を行い、トータルレビューにも活用して、関西学院全体の改革促進につなげることができた。
2021 年度	「中期計画総括シート」を通して中期総合経営計画と連動しながら、学部・研究科の自己点検・評価を継続的に進めた。なお、全 14 研究科が独自 KPI を設定することができた。また、KGI・KPI の数値や取組状況を踏まえた全学での議論の場を設け、改革の促進を図った。さらに、経営と教学の総合的な IR 機能を強化するため、IR 推進体制の組織改編を行った。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

## 5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	2019 年度から学部・研究科も、全学の KPI と連動しながら個別の状況に合わせて独自に KPI を設定し、毎年その数値や取組状況を評価し、改善・促進する取り組みを「中期計画総括シート」を用いて実施していく。全学の KPI や KGI は上部会議体に報告の上、進捗課題等を共有していく。一方、学部・研究科の PDCA サイクルをどう具体的な改善(教育課程の再編成、プログラム拡充や入試制度の変更など)につなげていけるかが課題。
2020 年度	「中期計画総括シート」を活用することで、中期総合経営計画と連動しながら、引き続き学部・研究科の自己点検・評価を進めると共に、未設定の研究科独自 KPI を定めるよう支援する。また、全学の KGI・KPI を情報共有することで KG の現在地を確認するとともに、これらのデータを中期計画の第 2 フェーズに向けたトータルレビューにも活用し、学院全体のマネジメントの質を高めていく。
2021 年度	引き続き、学部・研究科のエビデンスに基づく自己点検・評価の取り組みを推進することに加え、すべての研究科が独自 KPI を定めるよう支援を行う。KSC 再編・活性化に伴い、改編した学部等への支援も行う。また、KGI・KPI や調査結果を活用して、関西学院全体のマネジメントの質を高めていく。なお、教学 IR から経営 IR へと進化させていくにあたって、IR の組織体制の在り方の再検討も行う。
2022 年度	中期総合経営計画と連動した学部・研究科の自己点検・評価を継続的に推進することに加え、改編された理・工・生命環境学部の独自 KPI の設定への支援を行う。また、2022 年度より設置された IR 推進本部の下で、KGI・KPI を含めた各種データを活用した学内者限定のダッシュボードの公開等の情報共有強化の取組を通じて、経営と教学が一体となった総合的マネジメントの実現をめざす。
2023 年度	
2024 年度	

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	—
2019 年度	—
2020 年度	—
2022 年度	—
2023 年度	—
2024 年度	

## 7. Total Review の結果

## 【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年度から学部・研究科が「中期計画総括シート」に独自の KPI を設定し、マネジメントの質の向上に寄与した。</li> <li>・KGI・KPI ダッシュボードのさらなる精緻化を図る必要がある。</li> </ul>	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学院全体の長期戦略や学部の中期計画の成果検証・計画見直しへの KPI・KGI の活用 促進</li> </ul>

## 【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	